

研究のご協力をお願い

札幌麻生脳神経外科病院では下記の臨床研究を行います。皆様におかれましては本研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますよう、お願いいたします。

なお、本研究への参加を希望されない場合、または本研究に関するお問い合わせは、お手数をかけますが、当院連絡先までご連絡ください。

1. 研究名：脳卒中後片麻痺患者に対する末梢神経感覚刺激と課題指向型練習の併用効果
ーシングルケースデザインによる検討ー

2. 研究の対象

2022年に当院回復期リハビリテーション病棟に入院された脳卒中後片麻痺患者1名

3. 研究期間

2022年6月28日～2022年7月26日

4. 研究目的

脳卒中治療ガイドラインでは脳卒中後の運動障害や歩行障害に対して電気刺激療法が推奨されている。末梢神経感覚刺激（Peripheral nerve sensory stimulation：PSS）療法は、長時間感覚閾値の電気刺激を末梢神経に与えるという電気刺激方法であり、運動野の興奮性増大による麻痺側運動機能の改善や運動学習の促進により動作能力の改善が得られることが先行研究により示唆されているが、国内での報告は少なく十分な検証がなされていないのが現状である。

本研究では、脳卒中発症後に歩行障害を呈した症例に対し、PSSと課題指向型練習の併用による治療効果について検証することを目的としている。

5. 研究方法

本研究はABABシングルケースデザインによる一事例研究である。ベースライン期では課題指向型練習を中心とした通常の理学療法介入を実施し、介入期にはPSSを併用する。使用する機器は低周波治療機器（ESPURGE、伊藤超短波社製）とし、効果判定として各期での歩行能力（歩行速度、耐久性、対称性）と歩行時の筋活動評価を行うことで治療効果を検証する。

6. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別・診断名・合併症（既往歴）・画像所見・治療内容
最大歩行速度、歩行耐久性、歩行対称性、歩行時の下肢筋活動

7. 外部への試料・情報の提供

研究データは研究責任者が保管・管理し、外部に提供することはありません。
学会などの発表は個人情報の漏えいに十分に配慮して行います。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院連絡先：

札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 居橋 拳児

住所 札幌市東区北 22 条東 1 丁目 1-40

電話 011-731-2321